

参考 1 長期的な事業見通しと財政収支見通し

- 下水道は、市民の安全で快適な暮らしと良好な環境を守り、社会経済活動を支える必要不可欠なライフラインです。この下水道を未来へ引き継いでいくためには、下水道施設を適切に維持管理するとともに、計画的に改築・再構築などを行う必要があります。そして、下水道事業を行うための資金を計画的に確保するには、長期的な事業見通しと財政収支見通しを立てることが重要となります。
- そこで、以下の試算条件に基づき、長期的な事業・財政収支見通しの試算を行いました。なお、この試算で用いた条件は不確実なものが多く含まれていることから、ここで示すグラフなどは具体的な計画を示すものではなく、あくまでも仮定のもと算出した一つの試算結果となります。

(1) 期間

- 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの人口推計期間（～2060年度）に合わせ、本ビジョン開始（2026年度）から2060年度までの35年間

(2) 試算条件

- 原則、本ビジョンの財政収支計画の試算条件（P63）に基づき算出。
- 維持管理費や建設事業費については、以下の条件も踏まえて算出。

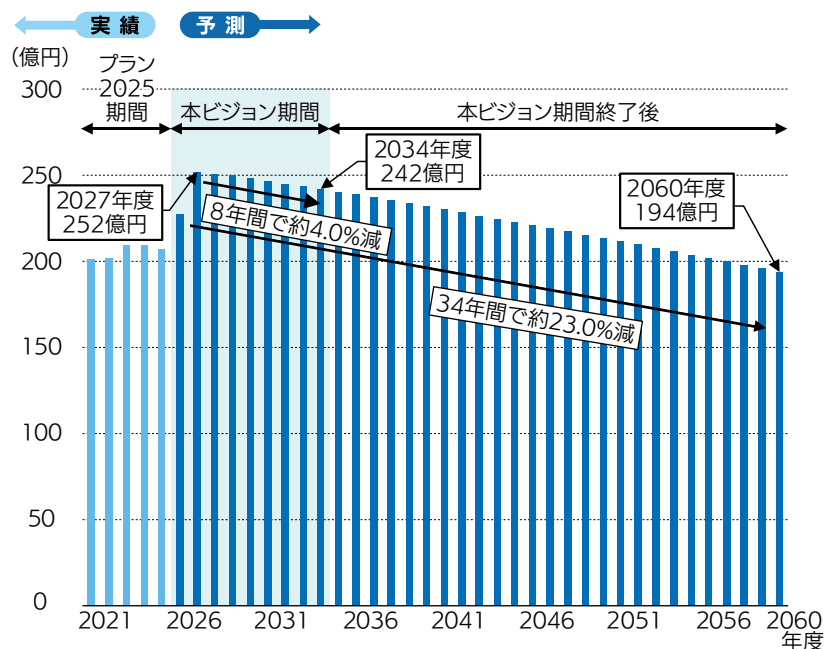
維持管理費	2035年度以降は、2034年度の物価水準が継続すると仮定した上（※）で、人口減少に伴う処理水量の減少や施設の統廃合による事業費の減少を見込んで必要な事業費を試算								
建設事業費	<p>2035年度以降は、2034年度の物価水準が継続すると仮定した上（※）で、札幌市下水道改築基本方針に基づき、大規模な改築事業を個別に積み上げて試算</p> <p style="text-align: center;">＜改築の考え方＞</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">本管</td> <td>将来的に約60km/年の改築が必要</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">取付管</td> <td>コンクリート製の取付管を優先して調査し、必要に応じて改築</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">土木・建築構造物</td> <td>ダウンサイジングや統廃合などにより施設規模を適正化</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">機械・電気設備</td> <td>標準耐用年数の約2倍に延命化し、設備の特性に応じた方法で効率的に改築</td> </tr> </table>	本管	将来的に約60km/年の改築が必要	取付管	コンクリート製の取付管を優先して調査し、必要に応じて改築	土木・建築構造物	ダウンサイジングや統廃合などにより施設規模を適正化	機械・電気設備	標準耐用年数の約2倍に延命化し、設備の特性に応じた方法で効率的に改築
本管	将来的に約60km/年の改築が必要								
取付管	コンクリート製の取付管を優先して調査し、必要に応じて改築								
土木・建築構造物	ダウンサイジングや統廃合などにより施設規模を適正化								
機械・電気設備	標準耐用年数の約2倍に延命化し、設備の特性に応じた方法で効率的に改築								

※ 2034年度までは年1%の物価上昇率を見込んでいますが、2035年度以降の物価動向は不透明なため、物価上昇率を見込んでいません。

(3) 試算結果

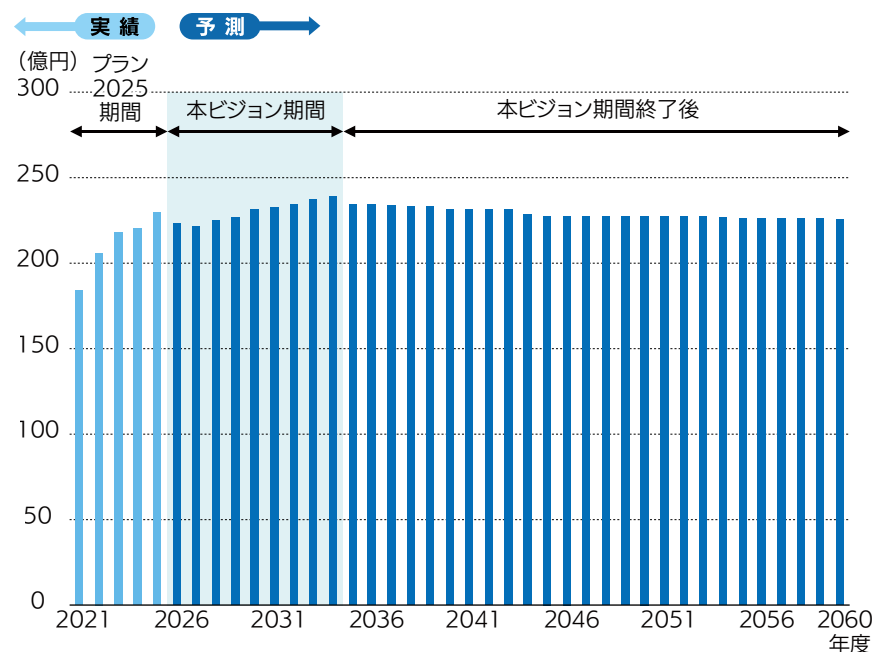
① 下水道使用料

- 下水道使用料は、2026年度に29年ぶりの下水道使用料改定により、好転します。
- しかし、その後は、人口減少に伴い、緩やかに減少していきます。今後、下水道使用料改定を行わなかった場合、2060年度の下水道使用料は、ピークの2027年度と比較して、約23%減少となる見込みです。



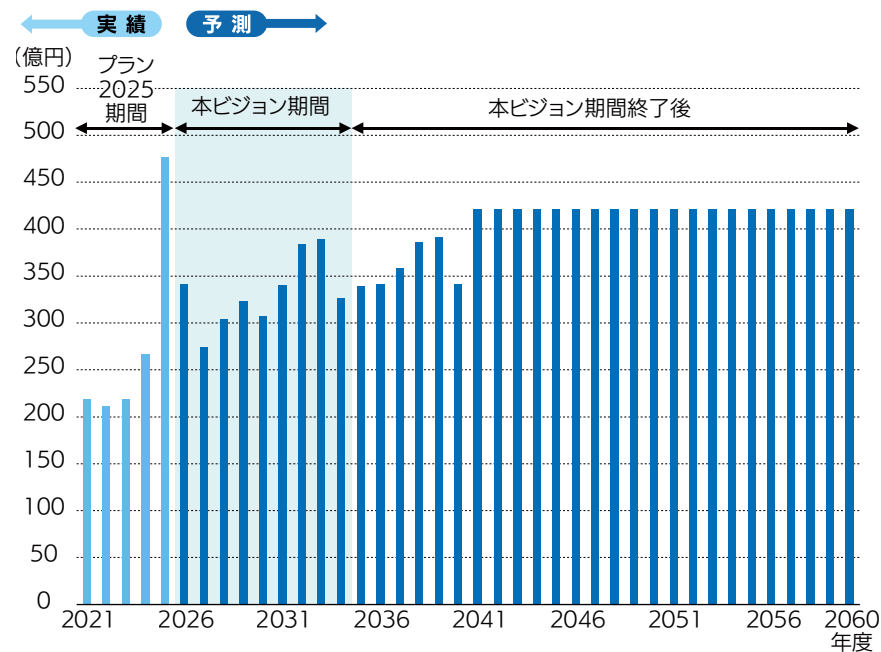
② 維持管理費

- プラン2025期間は、電気料金等の著しい物価高騰により、維持管理費は増加しました。
- 本ビジョン期間は、老朽化した取付管の調査箇所数がピークを迎えることなどにより維持管理費はさらに増加の見通しです。
- 本ビジョン終了後は、人口減少に伴う処理水量の減少により、維持管理費は緩やかに減少していく見通しです。



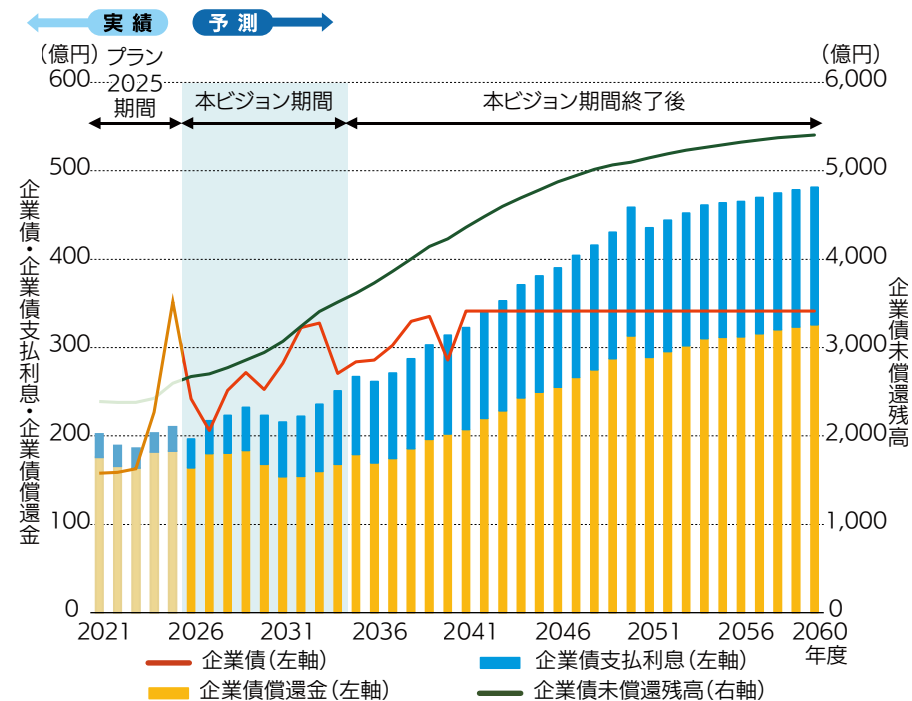
③ 建設事業費

- プラン 2025 期間は、2024 年度から本格的に実施している都心アクセス道路事業に伴う管路施設の移設工事により、建設事業費は大幅に増加しました。
- 本ビジョン期間は、老朽化した管路の改築の増加などにより、建設事業費は増加傾向となる見込みです。
- 本ビジョン期間終了後は、2041 年度から処理施設の再構築事業が本格化するなど、建設事業費はさらに増加傾向となる見込みです。そのため、特定の時期に事業費が集中しないよう、平準化して事業を実施します。



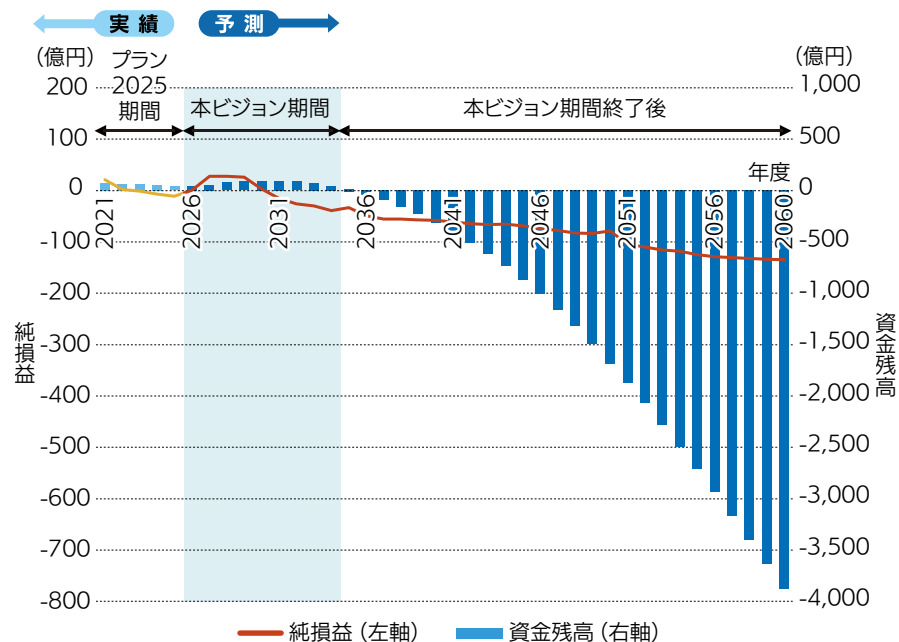
④ 企業債

- 建設事業費の増加に伴い、企業債は増加傾向となり、2040 年度頃からは 350 億円程度となる見込みです。
- その結果、2060 年度には、企業債支払利息と企業債償還金の合計額は 500 億円程度となる見込みであり、企業債未償還残高は 5,500 億円程度となる見込みです。



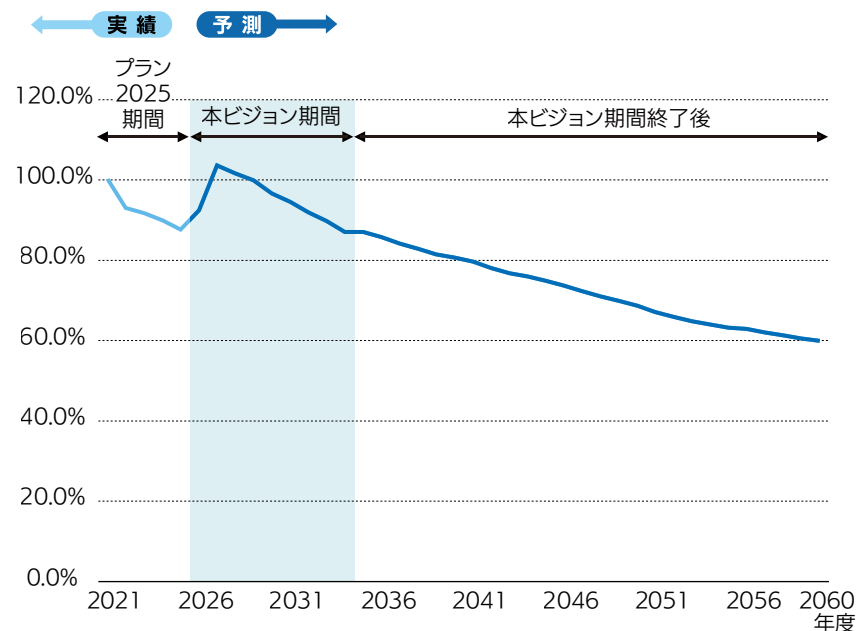
⑤ 純損益・資金残高

- ①～④の試算結果などから、純損益と資金残高の見通しを試算しました。
- 2027年度以降使用料改定を行わなかった場合、純損益は2031年度にはマイナスに転じ、資金残高は本ビジョン期間終了後の2036年度にはマイナスに転じる見込みです。



⑥ 経費回収率

- ①～④の試算結果などから、経費回収率の見通しを試算しました。
- 2027年度以降使用料改定を行わなかった場合、経費回収率は2030年度には100%を下回る見通しです。



(4) 総括

- 今後、管路施設の改築や、処理施設における土木・建築構造物の再構築が本格化することなどにより、建設事業費は増加していきます。一方、下水道事業の主要な財源である下水道使用料は、人口減少とともに緩やかに減少する見込みであるため、財政状況はますます厳しくなります。
- 下水道を未来へ引き継いでいくためには、着実に改築・再構築事業などに取り組む必要があり、今後も長期にわたって多額の投資が必要になります。
- そのため、適切な維持管理・計画的な改築による事業の平準化や水再生プラザの民間委託など、これまで進めてきた経営効率化の取組に加え、ダウンサイジングや施設の統廃合による更なるコスト縮減の検討を進めていきます。また、下水道使用料の改定など財源確保に向けた取組を継続して進めていくことが重要となります。

参考2 策定までの検討の経過

(1) 札幌市営企業調査審議会

- 札幌市営企業調査審議会は、札幌市の公営企業（下水道、水道、交通、病院）に関する運営管理の方針や財政に関することについて調査・審議を行っています。下水道部会の委員は、学識経験者や各種団体などからの推薦及び公募の市民によって構成されています。
- 将来にわたって市民生活に必要なライフラインである下水道を守り、下水道サービスを維持していくため、2025年3月から12月にかけて、今後必要な事業と財政収支見通し、それらを踏まえた受益者負担のあり方や本ビジョンの内容について、総会および下水道部会で計7回にわたりご審議いただきました。

札幌市営企業調査審議会 下水道部会の委員

氏名	職業・役職等
朝野 由紀	札幌市PTA協議会副会長
臼井 栄三	市民委員
大金 弘武	札幌商工会議所政策委員会副委員長
岡田 美弥子(部会長)	北海道大学大学院経済学研究院教授
押木 守	北海道大学大学院工学研究院准教授
紺野 裕和	市民委員
白崎 伸隆	北海道大学大学院工学研究院准教授
武村 理雪	市民委員
馬場 幸樹	一般社団法人札幌青年会議所常任理事
松浦 豊	北海道中小企業団体中央会専務理事
吉田 賢一	連合北海道札幌地区連合会会長

検討経過

	時期	議題等
1	2025年3月14日(総会)	持続可能な下水道サービス提供のための受益者負担のあり方について(諮問)
2	2025年3月14日(下水道部会)	現状認識・経営分析
3	2025年5月15日(下水道部会)	今後必要な事業と財政収支見通し 使用料算定手法・期間・健全経営に必要な指標
4	2025年6月10日(下水道部会)	使用料体系の考え方・課題 使用料体系シミュレーション
5	2025年7月17日(下水道部会)	答申案検討
6	2025年8月7日(総会)	持続可能な下水道サービス提供のための受益者負担のあり方について(答申)
7	2025年12月17日(下水道部会)	札幌市下水道ビジョン(案)報告 下水道使用料の改定内容報告

札幌市営企業調査審議会総会および下水道部会の資料や議事録は、以下の札幌市公式ホームページからご覧になれます

総会

<https://www.city.sapporo.jp/somu/shieikigyo/sokai/index.html>

下水道部会

<https://www.city.sapporo.jp/gesui/shingikai/shingikai.html>

(2) 広報イベントにおける周知

- 市民の皆様には本ビジョンへの理解を深めていただくため、下水道事業の現状や今後必要な取組などをまとめたパネルを以下のイベントで掲示し、本ビジョンの概要を周知しました。

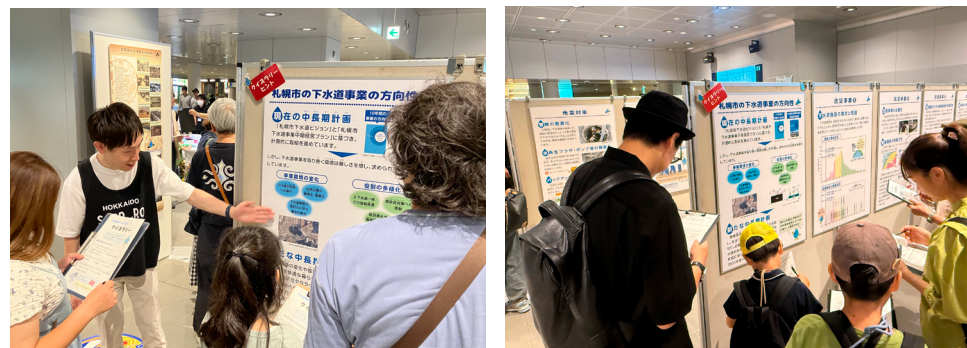
① 下水道事業パネル展 2025

日時：2025年8月30日（土）12:00～18:00

2025年8月31日（日）9:00～18:00

場所：札幌駅前通地下広場【チ・カ・ホ】北3条交差点広場（西）

イベント来場者数：約2,400人（2日間）



下水道事業パネル展 2025

② 札幌市下水道科学館フェスタ

日時：2025年9月6日（土）9:30～16:00

2025年9月7日（日）9:30～16:00

場所：札幌市下水道科学館

イベント来場者数：7,236人（2日間）



札幌市下水道科学館フェスタ

(3) パブリックコメント

① 意見の募集期間

2025年12月24日（水）から2026年1月23日（金）まで（31日間）

② 資料の配布・閲覧場所

- 下水道河川局事業推進部下水道計画課（下水道河川局庁舎3階）
- 市政刊行物コーナー（札幌市役所本庁舎2階）、各区役所総務企画課広聴係
- 各まちづくりセンター、札幌市下水道科学館、札幌市公式ホームページ

③ 意見提出者数・意見数・意見の内訳

意見提出者数：7人、意見数：11件

年代別内訳

年代	提出者数	意見数
19歳以下	0人	0件
20歳代	0人	0件
30歳代	1人	1件
40歳代	0人	0件
50歳代	2人	5件
60歳代	3人	4件
70歳代以上	1人	1件
合計	7人	11件

提出方法別内訳

提出方法	提出者数	構成比
持参	0人	0.0%
郵送	0人	0.0%
ファックス	1人	14.3%
電子メール	0人	0.0%
ホームページ	6人	85.7%
合計	7人	100.0%

意見の内訳

年代	意見数	構成比
1章 はじめに	1件	9.1%
2章 札幌市の下水道のあゆみと整備状況	0件	0.0%
3章 ビジョン2030・プラン2025の取組結果	0件	0.0%
4章 現状と課題	3件	27.3%
5章 計画体系	0件	0.0%
6章 施策と取組内容	7件	63.6%
7章 財政収支計画	0件	0.0%
8章 進捗管理	0件	0.0%
参考資料	0件	0.0%
合計	11件	100.0%

④ 意見に基づく変更点

市民の皆様から頂いたご意見を基に、当初案を次のとおり変更しました。

「4 現状と課題」への意見と変更点

意見の概要	意見を踏まえた変更点
「4-4 札幌市下水道事業の現状と課題 (1) 下水道施設の老朽化対策」について、施設の老朽化起因による道路陥没事故が全国各地で発生し、札幌市でも緊急調査を実施したかと思うが、対策が盛り込まれていないのではないか。	全国特別重点調査で判明した大口径管路の対策については、「施策1 1-1 管路施設の改築・再構築」(P37)に記載のとおり、調査結果を踏まえて必要な対策を進めてまいります。 また、ご意見を踏まえ、「施策2 2-① 管路施設の維持管理」(P39)に、以下の取組内容を追記しました。 【変更前】 ○本管の状態を詳細に把握するため、本管起因の事故時における影響や布設からの経過年数を踏まえた優先順位に基づき、年間約210kmの詳細調査(テレビカメラ調査や潜行目視調査など)を実施します。 【変更後】 ◎本管の状態を詳細に把握するため、(略)、年間約210kmの詳細調査(テレビカメラ調査や潜行目視調査など)を実施します。また、 <u>全国特別重点調査の結果なども踏まえ、損傷リスクの高い区間を的確に把握します。</u> その上で、点検や調査の優先順位を設定し、効率的な維持管理を推進します。

「6 施策と取組内容」への意見と変更点

意見の概要	意見を踏まえた変更点
「施策3 災害への対応力強化」において、大雨時のマンホール蓋の飛散防止対策も重要と考える。	ご意見を踏まえ、以下のページの記述を変更しました。 4 現状と課題 (2)自然災害への対応 ①浸水対策(P26) 【変更前】 (記載なし) 【変更後】 ・また、大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散リスクの高い箇所から優先的に蓋の交換などの対策を進めました。 6 施策と取組内容 3-①総合的な浸水対策(P43) 【変更前】 (記載なし) 【変更後】 ■大雨時におけるマンホール蓋の飛散対策 大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散を防ぐため、引き続き蓋の交換などを進め安全性の向上に努めます。

ご意見の概要と札幌市の考え方についての詳細は、札幌市公式ホームページからご覧になれます <https://www.city.sapporo.jp/gesui/keieiplan/vision2034.html>

参考3 用語の解説

あ

一般会計繰入金 (いっばんかいけいくりいれきん)・・・P8

維持管理費や企業債の元利償還金のうち、雨水処理に係る経費など、一般会計が負担する経費相当分を下水道事業会計に繰り入れるものであり、主な原資は税金である。

雨水拡充管 (うすいかくじゅうかん)・・・P7

大雨が降った時に、既設の管路施設の排水能力を超えた雨水を流す管のこと。増補管ともいう。

SDGs (えすでいーじーず)・・・P35

持続可能な開発目標のことで、Sustainable Development Goals の略。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において記載された、2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と169のターゲット(取組・手段)から構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。

大雨 (おおあめ)・・・P17

本ビジョンでは、日降水量100mm以上の雨のこと。

大雨時におけるマンホール蓋の浮上・飛散 (おおあめじにおけるまんほーるぶたのふじょう・ひさん)・・・P26

激しい雨が降ると、短時間のうちに大量の雨水が下水管へ流れ込み、管内の水位が一気に上昇する。これにより、逃げ場を失った空気が激しく圧縮される「空気圧」や、押し寄せる水が蓋を裏側から突き上げる「水圧」が発生。これらの圧力により、マンホール蓋が押し上げられ、浮上・飛散することがある。

汚泥 (おでい)・・・P9

下水処理などの過程で発生する泥状の物質の総称のこと。

汚泥圧送管 (おでいあっそうかん)・・・P27

汚泥を集中処理するために、ポンプによる圧力を利用して、各水再生プラザからスラッジセンターへ汚泥を送る管。

か

改築 (かいちく)・・・P4

老朽化した施設を更新または長寿命化対策により、耐用年数を新たに確保すること。

改良埋戻材 (かいりょううめもどしざい)・・・P14

土砂などを原料とし、固化材を添加した埋戻材。脱水汚泥の焼却により発生した焼却灰は、この原料の一部として土砂と混ぜて有効利用している。

管理・更新一体マネジメント方式 (かんりこうしんいつたいまねじめんとほうしき)・・・P21

コンセッション方式に準ずる効果が期待でき、水道、下水道などにおいて、コンセッション方式に段階的に移行するための官民連携方式として、長期契約で管理と更新を一体的にマネジメントする方式。

基幹業務システム (きかんぎょうむしすてむ)・・・P53

札幌市下水道事業会計の会計関連業務を支援するシステム群(財務会計システム、財務活用システム、企業債システム、収入整理システム、固定資産管理システム、固定資産整理システム、備品管理システム、資金管理システム、連絡車予約システム)。

経営戦略 (けいえいせんりやく)・・・P6

公営企業が将来にわたって安定的に事業継続していくための中長期的な基本計画のこと。これには、施設・設備に関する投資の見通しと、投資に対する財源の見通しを盛り込む必要がある。

下水道処理施設維持管理支援システム (げすいどうしよりしせつじかんりしえんしすてむ)・・・P53

札幌市下水道処理施設の維持管理業務を支援するシステム群(設備維持管理システム、作業管理システム、修繕計画策定管理システム、運転管理システム)。

減価償却費 (げんかしょうきゃくひ)・・・P15

固定資産について、経年による価値の減少額をその耐用年数に応じて各年度の費用に配分していくものであり、現金支出を伴わない費用のこと。

か

建設事業 (けんせつじぎょう)・・・・・・・・・・・・・・・・P7

管路施設と処理施設の整備や改築のために必要となる設計、工事などの事業のこと。

高度経済成長期 (こうどけいざいせいちょうき)・・・・・・・・P19

1950年代から1970年代にかけて日本が急速な経済成長を遂げた時期のこと。

国庫交付金 (こっここうふきん)・・・・・・・・・・・・・・・・P14

国から都道府県または市町村に対して交付される、奨励または財政援助を目的とした交付金のこと。

コンセッション方式 (こんせっしょんほうしき)・・・・・・・・P21

利用料金の徴収を行う公共施設等について、施設の所有権を地方公共団体が有したまま、運営権を民間事業者に設定する方式。運営権者は、原則として利用者から收受する利用料金により事業を運営する。

さ

災害時基幹病院 (さいがいじきかんびょういん)・・・・・・・・P27

重症の傷病者に対し緊急手術等の必要な医療を提供する病院として札幌市長が指定した病院。市立札幌病院をはじめとして、市内に16箇所ある。

再構築 (さいこうちく)・・・・・・・・・・・・・・・・P4

老朽化した施設の配置・規模・処理方式などを根本的に見直し、再び組み立てなおすこと。

札幌下水道公社 (さっぽろげすいどうこうしゃ)・・・・・・・・P54

札幌市の下水道施設及び河川施設の維持管理、設計・施工、下水道事業及び河川事業に関する調査研究、普及啓発などを行う一般財団法人。札幌市の出資団体の一つ。

さっぽろ建設産業活性化プラン (さっぽろけんせつさんぎょうかつせいかぷらん) P55

建設産業の活性化を図り、将来の建設産業の持続可能な体制につなげることを目指し、建設業界と市が課題や目標を共有し、両輪となって取組を進めていく指針として2020年5月に1期目の計画(計画期間2020～2024年度)を策定。2025年3月には、建設産業の体制維持に向けた取組を継続・加速していくため、2期目の計画(計画期間2025～2029年度)を策定。札幌市公式ホームページ⇒ <https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/stn/kensetsusangyou/kasseikaplan.html>

札幌市下水道改築基本方針 (さっぽろしげすいどうかいちくきほんほうしん)・・・P25

計画的に下水道施設の改築を進めるため、改築に係る基本方針と今後の改築事業量の見通しを取りまとめ、2015年3月に策定。2024年3月の改定では、新たに蓄積した施設の維持管理データを用いて事業量見通しを精査するとともに、処理施設の再構築事業に係る基本的な考え方を反映。札幌市公式ホームページ⇒ https://www.city.sapporo.jp/gesui/01yakuwari/06_kaichikuhoushin.html

札幌市下水道脱炭素構想 (さっぽろしげすいどうだつたんそこうそう)・・・・P31

下水道事業の脱炭素化を確実に進めるため、脱炭素に向けた方針や具体的な取組、温室効果ガス排出量の削減効果などを取りまとめ、2024年3月に策定。札幌市公式ホームページ⇒ https://www.city.sapporo.jp/gesui/01yakuwari/07_datutannsokousou.html

札幌市上下水道耐震化計画 (さっぽろしじょうげすいどうたいしんかけいかく)・・・P27

水道局と下水道河川局が連携して重要施設へ接続する管路の耐震化などを一体的かつ優先的に進めることを目指して、2025年1月に策定。札幌市公式ホームページ⇒ <https://www.city.sapporo.jp/suido/riyosya/plan/shihyo/jougesuido-taishinka.html>

さっぽろ連携中枢都市圏 (さっぽろれんけいちゅうすうとしけん)・・・・P14

札幌市と近隣11市町村(小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町)からなる圏域。それぞれの「まち」の特性を活かし、密接な連携と役割分担のもと、暮らしや経済に役立つさまざまな取組を行うことで、「住みたくなる」「投資したくなる」、さまざまな面で「選ばれる」まちづくりを圏域全体で目指している。

残渣 (ざんさ)・・・・・・・・・・・・・・・・P38

下水に含まれる沈降性の土砂やごみ等を洗浄した際に分離されるごみ。

時間計画保全 (じかんけいかくほぜん)・・・・・・・・P38

目標耐用年数の経過を目安に改築を行う保全方法。劣化状態の把握が困難な電気設備を対象としている。

資金残高 (しきんざんだか)・・・・・・・・P15

事業運営により発生した過去からの資金の残高のこと。

資産維持費 (しさんいじひ)・・・・・・・・P22

下水道施設の計画的な改築等の原資として内部留保すべき費用のこと。

さ

状態監視保全 (じょうたいかんしほぜん)・・・P38

目標耐用年数の経過を目安に調査し、劣化状態に応じて修繕または改築を行う保全方法。部品の劣化状態の把握が可能な機械設備を対象としている。

新下水道ビジョン (しんげすいどうびじょん)・・・P6

国が、下水道の使命や長期ビジョン、そして長期ビジョンを実現するための中期計画を定めたもの。

新下水道ビジョン加速戦略 (しんげすいどうびじょんかそくせんりやく)・・・P6

国の新下水道ビジョンの実現を加速するため、5年程度で実現すべき重点施策などを定めたもの。

水系 (すいけい)・・・P54

大小多数の河川を一群として大別したもので、札幌市の下水道は3つ（豊平川、茨戸川、新川）の水系に放流している。（なお、河川管理に基づく水系とは異なる。）

ゼロエミッション (ぜろえみっしょん)・・・P46

あらゆる活動において、廃棄物（温室効果ガスなども含む）をゼロにすることを目指す取組。

潜行目視調査 (せんこうもくしちょうさ)・・・P39

作業員が管路内に入り、目視により行う詳細調査。作業員が入ることができない小さい管路については、テレビカメラを用いて調査する。

洗砂 (せんさ)・・・P38

下水に含まれる沈降性の土砂やごみ等を洗浄し、土砂に付着している有機分やごみなどを取り除いたもの。

総括原価方式 (そうかつげんかほうしき)・・・P22

下水道事業に必要な費用を算定し、それに見合った額を下水道使用料として定める方法のこと。

た

耐震化 (たいしんか)・・・P13

施設の耐震診断を行い耐震性能を有していることを確認することや、耐震工事を行うこと。

長期前受金戻入 (ちょうきまえうけきんれいにゅう)・・・P15

固定資産の取得に充てた収入のうち、国庫交付金などの収入をその耐用年数に応じて各年度の収益に配分していくものであり、現金収入を伴わない収益のこと。

デジタルツイン (でじたるついん)・・・P18

現実空間の情報を取得し、サイバー空間内に現実空間の環境を再現すること。

デジタルトランスフォーメーション (DX)

(でじたるとらんすふぉーめーしょん)・・・P21

デジタル技術の活用により、ビジネスモデルの改変や市民生活の質の向上を始めとした社会や経済、生活といったあらゆる面における大きな変革をもたらすこと。

デマンド・レスポンス (でまんどれすぽんす)・・・P51

電力の需要と供給のバランスを保つことを目的として、電力の需要側が供給側の要請に応じて電力消費量を削減する取組。需要側には、節電に応じることで報酬が得られるというメリットがある。

な

内水氾濫 (ないすいはらん)・・・P26

大雨により下水道で雨水を排水しきれず、地上に溢れることで発生する浸水。短時間であっても強い雨が降った場合や大雨により川の水位が上がった場合などに起こりやすい。

二軸管理 (にじくかんり)・・・P49

グラフの縦軸に処理水質を、横軸に消費エネルギーを設定し、関連する2つの指標を1つのグラフで管理することで、下水処理の状況を“見える化”し、PDCAサイクルにより運転管理の最適化をする方法。

は

BCP (びーしーぴー).....P13

Business Continuity Plan (業務継続計画) の略。自然災害など、予期せぬ事態が発生したときでも、業務を継続できるようにするための方法・手段を定めた計画。札幌市下水道 BCP では、自然災害のほか、感染症のまん延や火災の発生などの社会的リスクへの対応や、業務を継続するための計画を定めている。

PPP/PFI (ぴーぴーぴー / ぴーえふあい).....P21

PPP は、Public Private Partnership (官民連携事業) の略。公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本やノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指すもの。PFI は、Private Finance Initiative (民間資金等活用事業) の略。PPP の一類型で、民間が資金調達し、設計・建設、運営を民間が一体的に実施する方法。

肥効成分 (ひこうせいぶん).....P21

植物の成長に必要となる栄養素のこと。代表的な肥効成分として、窒素、リン、カリウムなどが挙げられる。

BIM/CIM (びむしむ).....P53

建物や設備などの情報をデジタル化して管理する技術のこと。BIM/CIM の活用により、設計成果の可視化による設計ミス防止や関係者との共同作業が可能となるなど、生産性向上への効果が期待される。

覆蓋 (ふくがい).....P38

最初沈殿池や反応タンク、最終沈殿池において、防臭等のために開口部に蓋をすること。

プレゼンス (ぷれぜんず).....P33

存在感や影響力のこと。

補てん財源 (ほてんざいげん).....P15

資本的収支の不足額を補う財源のこと。主に減価償却費から長期前受金戻入を差し引いた額のこと。

ま

水再生プラザ (みずさいせいぷらざ).....P7

下水を処理するための施設のこと。札幌市では 2007 年度に「下水処理場」から「水再生プラザ」に名称を変更した。

メンテナビリティ (めんてなびりてい).....P19

点検・調査、清掃、修繕、改築その他の作業をしやすくように施設等を計画 / 設計することで得られる維持管理の容易性のこと。

目標放流水質 (もくひょうほうりゅうすいしつ).....P13

各水再生プラザにおける放流先河川の環境基準達成に必要な放流水質 (BOD 値) として自主的に定めた管理指標。なお、BOD は Biochemical Oxygen Demand (生物化学的酸素要求量) の略。水中の汚れなどが微生物のはたらきにより分解される際に消費される酸素量のこと。この数値が大きいと、水質が汚濁していることを示す。

や

揚水施設 (ようすいしせつ).....P28

ポンプで水をくみ上げる施設のこと。

ら

ライフサイクルコスト (らいふさいくるこすと).....P50

整備にかかるイニシャルコスト (導入費用) と、維持管理に係るランニングコスト (維持費用) を合計したコストで、下水道施設を整備してから処分するまでにかかる費用の総額。

リダンダンシー (りだんだんしー).....P19

何か不測の事態が生じた際に、一定の能力を確保できるよう、システムに余裕や予備の機能を持たせること。

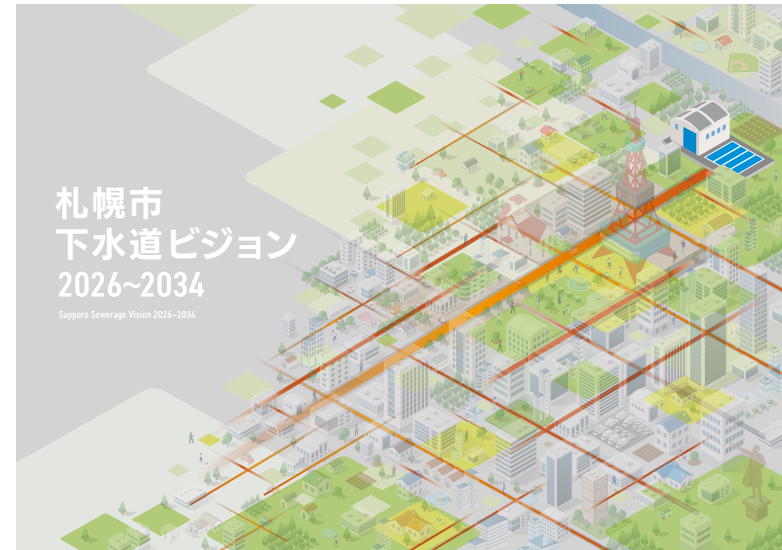
累積欠損金 (るいせきけつそんきん).....P64

企業活動によって生じた各年度の損失 (赤字) を積み上げたもの。

表紙のデザイン



本書の表紙



本書の表紙 2 枚目・概要版の表紙

- 本書の表紙のデザイン（左側）は、居住機能や商業・業務など多様な都市機能が集積し、豊かな自然環境を有する札幌のまちをイメージして作成しました。
- そして、表紙 2 枚目・概要版の表紙（右側）のデザインは、1 枚目の表紙をベースに、下水道の管路施設や処理施設を強調させることにより、下水道が札幌市民の暮らしや社会経済活動を支えているということをイメージして作成しました。



札幌市 下水道ビジョン 2026~2034

Sapporo Sewerage Vision 2026~2034

2026年(令和8年)3月発行

札幌市下水道河川局

〒062-8570 札幌市豊平区豊平6条3丁目2番1号

TEL 011-818-3452 FAX 011-812-5203

URL <https://www.city.sapporo.jp/gesui/keieiplan/vision2034.html>